

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

高等学校等安全登山指導者研修会

栃木の事故を受けて、国立登山研修所としては初めて研修所を出て、東京で高校山岳部指導者のための研修会を開催した。参加者は 88 名。高校以外の参加者もあったが、「高等学校等」と銘打った研修会だっただけに課題も明確で、実のある研修会となった。

最初にスポーツ庁健康スポーツ課の板橋専門職より、「高校生等の冬山登山の事故防止のための方策について」と題して、12 月 1 日にスポーツ庁から出された「冬山登山の事故防止について」という通知についてのレクチャーがあった。毎年冬山シーズンを前に出されてきた通知が、那須の事故後、有識者会議を経て今年はどうのような通知になるか、注目された通知だったが、基本的なスタンスにおいては昨年までとかわるものではないことが改めて強調された。つまり高校生の冬山登山は原則禁止だが、例外的に行う場合を排除しないというものだ。ただし行う場合は、「実施するために必要な条件等」を守らねばならない。その条件とは、①適切かつ安全な場所での基本的な内容にとどめること。②指導者の条件を整えること。③登山計画審査会の事前審査を受けること。④校長及び保護者の了解を得ること。⑤生徒への事前指導を実施すること。とし、これは登山ばかりでなく、講習会等も含んでいる。これはすでにご紹介している長野の指針とも齟齬がない。各県でこれをベースに今年の冬山登山が行われることになると思うが、一部に昨年までより後退している県もあるやに聞いている。各地の様子を交流しながら、よりよい形になっていけばいいと思うのだが・・・。

初日はこのあと講義が三本。北村憲彦さんは「安全登山の基本」、飯田肇さんは「積雪と雪崩」、大城和恵さんは、「参加者のヒヤリハット事例を例にとりあげ、医学的な観点からどうすればそれを防げたのか」を話された。どの講義も学術的でありながら、具体的な内容が盛り込まれており、とても参考になった。参加者の満足度も高かったのではないかと推測される。会場のオリンピック記念青少年記念総合センターでは、宿泊した先生たちの間で夜の部の交流会が持たれたが、こちらでもまた盛り上がった。

2 日目は小生が「那須雪崩事故検証委員会からの報告」を、北村さんが「安全登山の仕組みとプランニング」、高瀬洋さんが「山岳遭難の実態」を話された。私の講義は別として、2 日間でこれだけの講義が無料で受けられるのは国立登山研修所ならではの贅沢なプログラム。

昼食をはさんで、ワークショップが行われた。参加者が 10 班に分かれ、班ごとに、「高校生の安全登山に必要なこと」を主テーマとし、登山前にすること、登山中にすることをそれぞれ出し合った。そして、そこから導き出せるキーワードを付箋に書き出して見える化した。さらにそれを模造紙の上でグルーピングし、発表しあった。この手法は、11 月に登山研修所で行われた安全登山指導者中央研修会でもとられたものだ(11 月のテーマは「ヒヤリハット体験」)が、高校生にやらせても効果がある。

今回の研修会については、参加者からも前向きな感想が多かったと聞いているが、高体連登山専門部事務局より、資料を PDF にして各都道府県に共有したいという要望があり、研修所としても、中身の詰まった資料を多くの方に見ていただくことは安全登山に、

更に役立つものとして、公開する方向で進めている。ご期待ください。

冬の入り口で、耐寒ビバーク

12月16-17日、恒例の耐寒ビバークを決行した。13時に現地「馬羅尾高原キャンプ場」に集合。早速薪を集める。軽トラ2台分の薪を集めて、いざ焚火へ。意外と冷え込みが



薪を切り出す



焚火のもとでの夕食



雪がちらほら舞いだした



寝ている間に雪に埋もれた

弱く、存外寒くない。男子3班、女子1班。それぞれが火焚きもうまくいった。薪割に精を出すもの、火焚きに興ずるもの、ひたすら語らうもの。「火」は脱日常の最高のシチュエーションだ。

夕食を食べ終え、マシュマロを焼いて、十分語らったころから、天気予報通り雪がちらほら舞いだした。しかし、それほど強い降りではない。12時、このあと雪の降りが激しくなればテントに逃げ込むことも視野に入れながら、特に問題ないものについては、ビバーク決行を指示。シュラフと100均ショップで調達したブルーシート1枚が今宵の身を守るシェルター。小生自身は2時と4時半に起きたが、その時は雪は降っていなかった。しかし、6時半に起きると、うっすら雪が積もっていた。しかし、生徒たちもお見事。火を絶やさないばかりか、雪の中でもしっかりとビバークしていた。

2日目は、これも恒例の雨引山登山。雪は、頂上でも5cm程度。しかし、これから冬山を迎えるにあたっては十分訓練ができた。なお、松本県ヶ丘、池田工業の2校も同じ場所で同じような活動をした。冬山に向けて、互いに共同できる部分は共同で活動していければいいと思う。



ビバークで、一晚耐えた